

「遊佐地域の将来像」と協調策・振興策の参考イメージ

1. 過去に策定したものの

洋上風力発電に係る漁業協調策・漁業振興策等に関する対応方向の概要
- 令和3年2月（改訂） -

法定協議会での議論や行政による漁業振興施策の**基礎として活用**

この内容を基に**関係漁業者へアンケートやヒアリングを実施**

2. 将来像の検討に向けて地元で議論した内容

イメージ（1）

水産の観点から想定される海面漁業の協調策・振興策

イメージ（2）

クリーン&スマートなデータ駆動型漁業

イメージ（3）

つくり育てて地域が賑わう産業

3. 「とりまとめ」に盛り込まれる内容

洋上風力発電事業を通じた遊佐地域の将来像
(協議会意見とりまとめ)

2.のイメージを参考にしつつ、3.の将来像の内容を基に、事業者は協調策・振興策の内容を検討・提案

事業者

事業者

事業者

- 公募に参加する事業者は、「遊佐地域の将来像」(協議会意見とりまとめ)の内容を基に、地域・漁業との共存共栄を実現するための取組を検討し、公募占用計画において提案する形で記載する。
- 選定された事業者の提案を基に、選定事業者と地元関係者との協議を経て、実施する取組の内容を決定する。

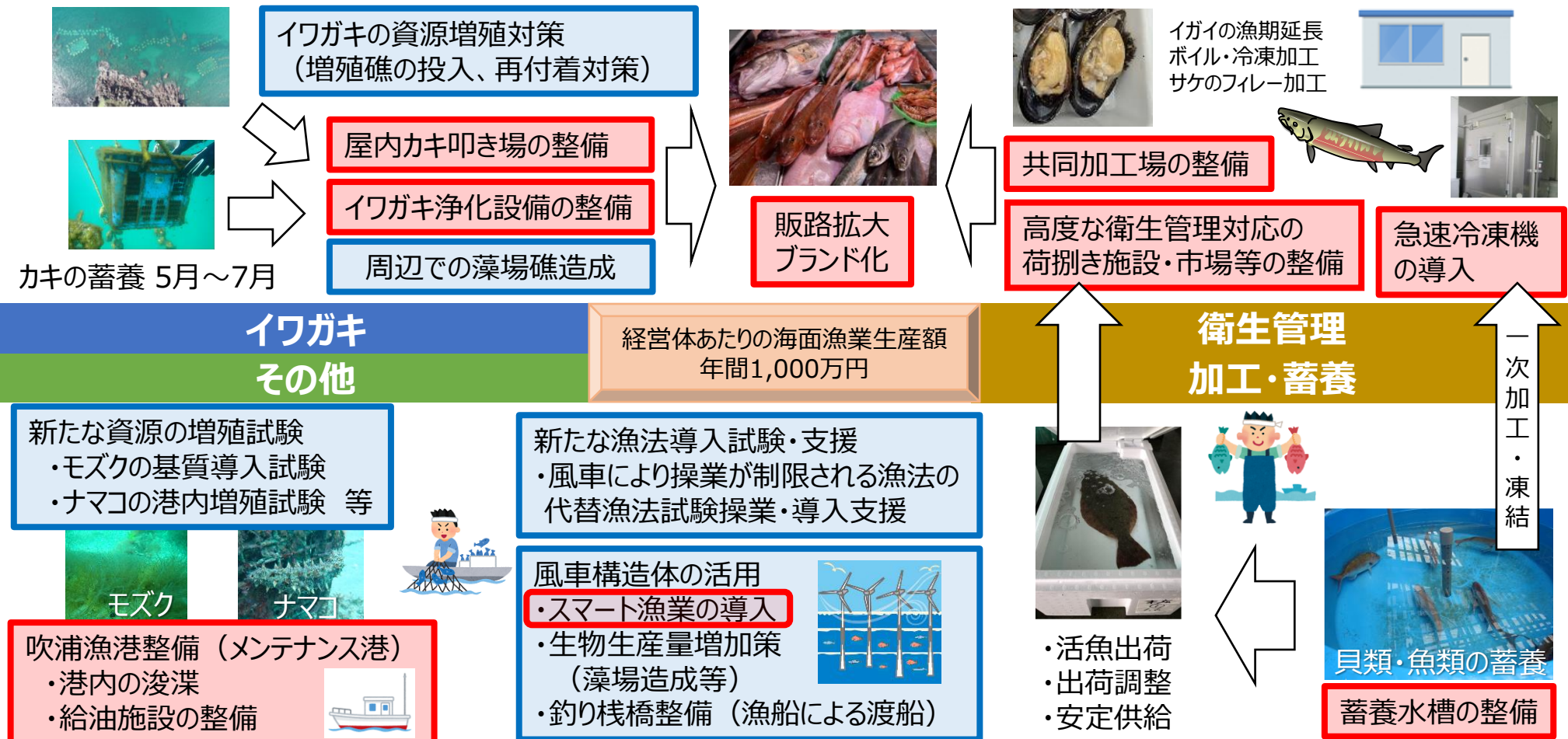
水産の観点から想定される海面漁業の協調策・振興策

風車設置前から
見込まれる協調策

今後期待される
振興策

イメージ
(1)

- 高度な衛生管理環境を整備することにより、安心・安全で高品質な水産物の出荷による高付加価値化を図る。
- 時化により出漁機会が限られることへの対策として、冷凍設備を備えた共同加工場の整備や、出荷調整や活魚出荷が可能となる蓄養施設を整備することで、安定供給体制を整え漁獲物の販路拡大及び単価向上を図る。加えて、遊佐町漁業生産額の20%を占めるイワガキを中心として、イワガキの増殖及びブランド化により漁業者の収入増を図る。
- これらにより、経営体あたりの海面漁業生産額を年間1,000万円にすることで漁業経営の安定化を目指すとともに、新規就業者を呼び込み、漁村地域の活性化につなげる。また、吹浦漁港をメンテナンス港として活用し、作業船としての漁船の活用につなげる。

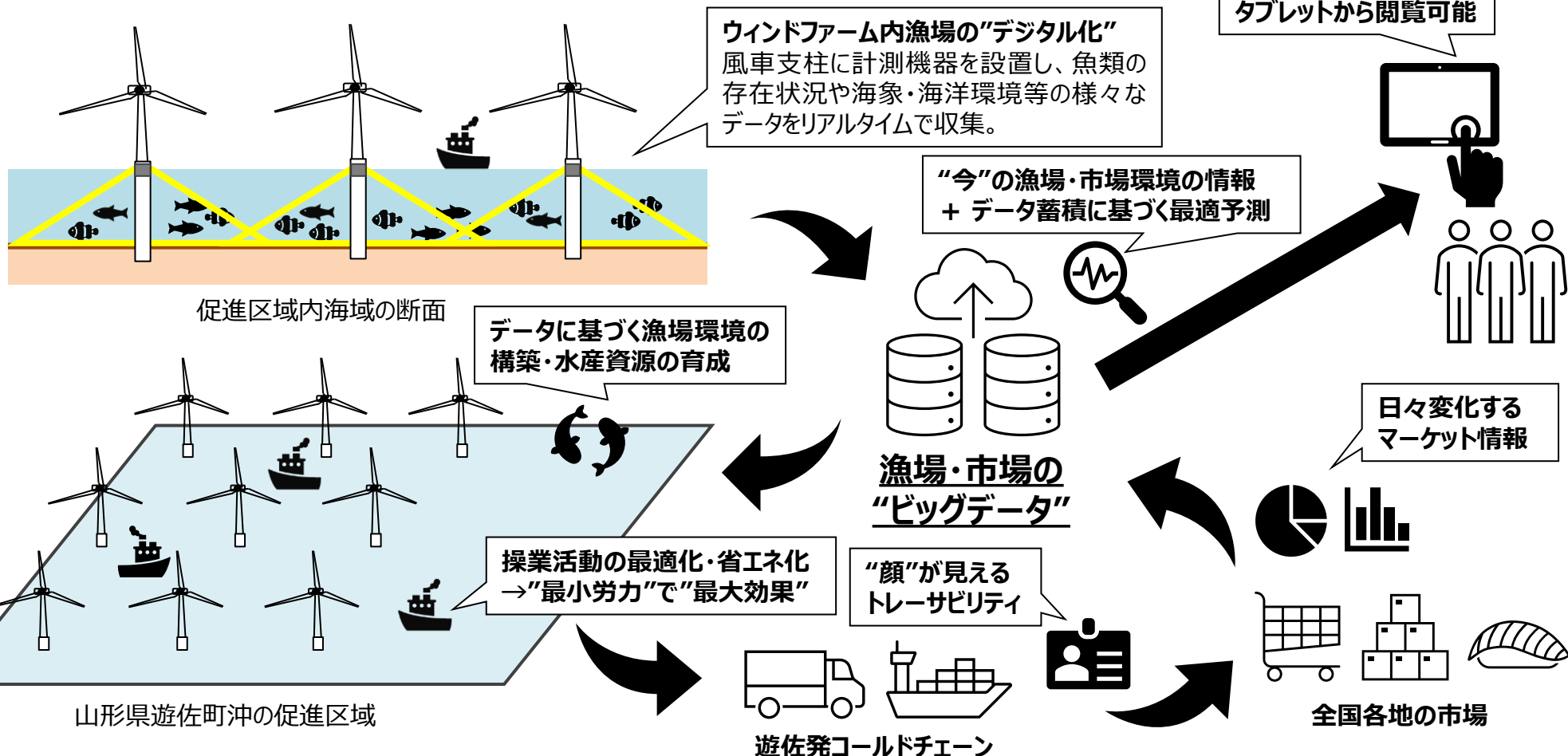


※ あくまで参考イメージであり、事業者の提案がこの通りの内容になることを意味するものではない。実際に実施する内容は、選定事業者の提案を基に別途協議による。

クリーン&スマートなデータ駆動型漁業

- 風車という構造物と様々なデジタル技術（※）を活用して、生産性の高い次世代の漁業の在り方を開拓。
- 漁業の現場から流通、消費に至る様々なデータを収集・解析し、出漁や漁場造成、販売戦略等を最適化。

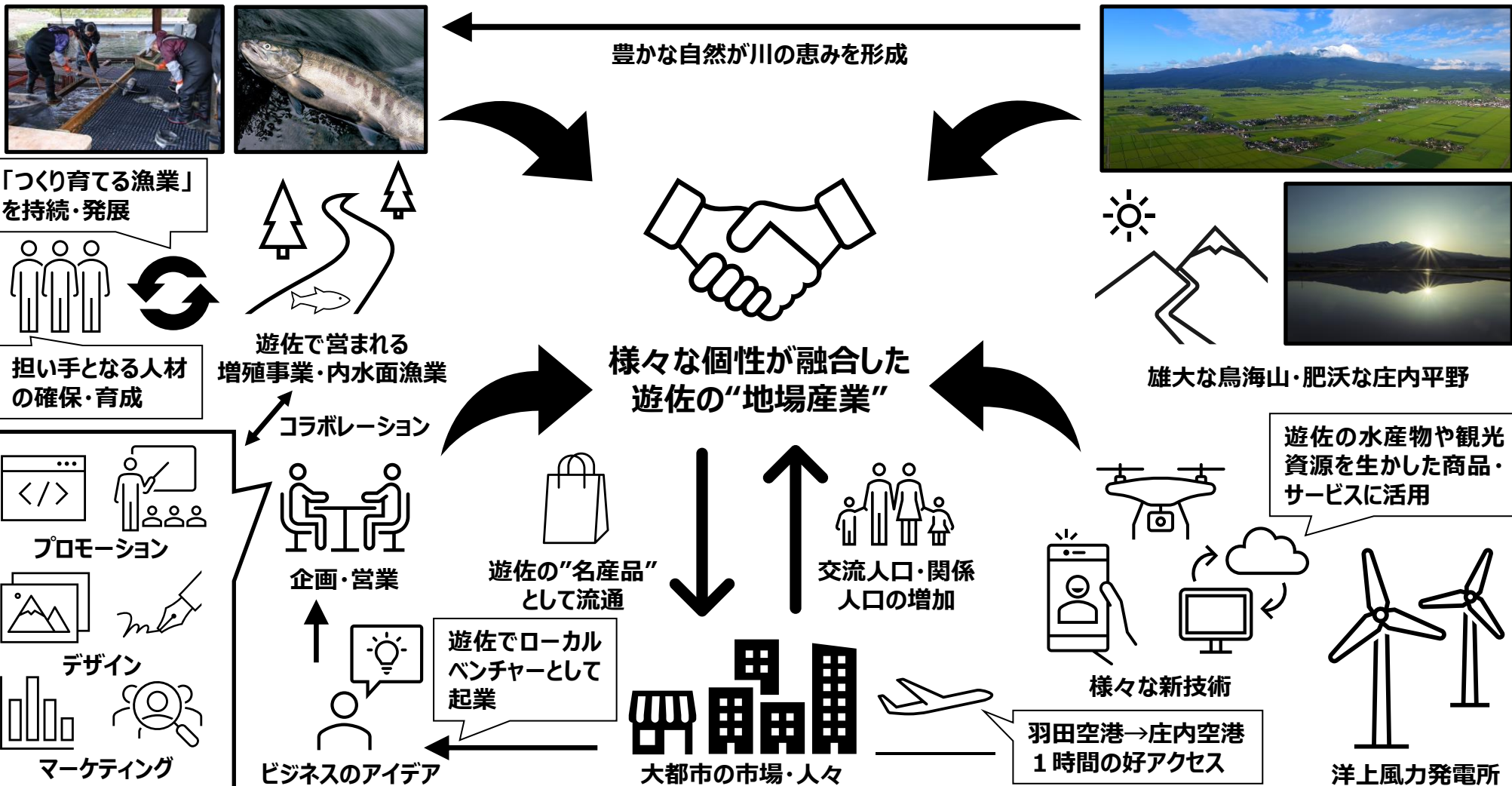
※ 例えば、スキャニングソナー（魚群探知）、デジタルツイン（現実空間のデジタル化と解析・シミュレーション）、ディープラーニング（特徴抽出・予測）、ブロックチェーン（改ざん防止・トレーサビリティ確保）等



※ あくまで参考イメージであり、事業者の提案がこの通りの内容になることを意味するものではない。実際に実施する内容は、選定事業者の提案を基に別途協議による。

つくり育てて地域が賑わう産業

- 異業種や新技術と連携して、遊佐の水産物から新たな価値をつくり、競争力ある商品・サービスを創出。
- 既存の産業に加え、様々なローカルベンチャーが育つ土壌を醸成し、地域内での交流・連携を活性化。



※ あくまで参考イメージであり、事業者の提案がこの通りの内容になることを意味するものではない。実際に実施する内容は、選定事業者の提案を基に別途協議による。